

事業者排出量削減報告書

住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）	京都府久世郡久御山町市田新珠城27								
氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）	津田電線株式会社 取締役社長 津田幸平								
事業者の主たる業種	電線・ケーブル製造販売								
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上））								
計画期間	平成20年4月～平成23年3月								
基本方針	ISO14001に準拠した環境マネジメントシステムの導入により、(1)省エネルギーの推進 (2)廃棄物排出量の削減 (3)環境配慮型製品の開発 (4)環境負荷化学物質の管理等により温室効果ガス排出量の最小化を目指す。 ((20)エネルギー使用量の削減を原単位目標で取組んだ)								
推進体制	社長、環境ISO管理責任者をトップとする環境保護推進組織を設け、目標とその実施計画を策定、月単位で進捗管理する。 ((20)エネルギー使用量の削減について原単位目標を掲げ、その実施計画を策定、月単位で進捗管理した。)								
	環境マネジメントシステム名称 ISO14001								
	適用範囲	津田電線株式会社、本社工場							
取得年月日	平成11年12月10日								
年度ごとの具体的な取組及び措置の状況	年度	設備、対象、工程等	措置内容						
	H20	工場全体	装置更新時の省エネタイプ採用（インバータ化等）、水銀灯の省エネタイプ化、局部照明推進、コンプレッサーの省エネ化、不要表示灯撤去、ノー残業デー実施、省エネ啓蒙						
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度（実績） （19）年度 （二酸化炭素換算）	目標年度（計画） （22）年度 （二酸化炭素換算）	増減率 （計画）	報告年度（実績） （21）年度 （二酸化炭素換算）	増減率 （実績）			
	A 事業所等排出区分	2,712.0 t	2,630.0 t	-3.0 %	2,071.1 t	-23.6 %			
	B 輸送車両排出区分	t	t	%	t	%			
	C その他排出区分	t	t	%	t	%			
	排出合計	*1 2,712.0 t	*2 2,630.0 t	-3.0 %	*4 2,071.1 t	-23.6 %			
実績に対する自己評価	具体的な取組及び措置の状況欄記載のとおり省エネ活動に取り組んでいる。引続き同様の活動を行っていく。 21年度は減産及び生産品種シフトの影響が大きく大幅削減となった。								
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	報告年度（実績）	増減率（実績）		
		二酸化炭素換算			%		%		
		二酸化炭素換算			%		%		
		二酸化炭素換算			%		%		
実績に対する自己評価									
その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等	対策等の区分	目標年度（計画）			報告年度（実績）				
		取組量等		（二酸化炭素換算）		取組量等		（二酸化炭素換算）	
	森林の保全及び整備	（整備面積）	ha	（吸収量）	t	（整備面積）	ha	（吸収量）	t
	府内産の木材の利用	（利用量）	m ³	（削減量）	t	（利用量）	m ³	（削減量）	t
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	（発電量）	kWh	（削減量）	t	（発電量）	kWh	（削減量）	t
	（熱供給量）	GJ	（削減量）	t	（熱供給量）	GJ	（削減量）	t	
	グリーン電力の購入	（購入量）	kWh	（削減量）	t	（購入量）	kWh	（削減量）	t
	家庭における温室効果ガス排出量の削減効果分の購入	（購入量）	t	（削減量）	t	（購入量）	t	（削減量）	t
	削減量等合計				*3 t				*5 t
	差引排出量 （排出合計－削減等合計）	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	報告年度（実績）	増減率（実績）			
	1 2,712.0 t	()2-(*)3 2,630.0 t	-3.0 %	(*)4-(*)5 2,071.1 t	-23.6 %				

注 1 該当する□には、レ印を記入してください。特定事業者以外の事業者の方はレ印の記入は不要です。
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のうち、今回報告の対象となる年度をいいます。
 3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。
 4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、〇〇工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標（生産数量、延べ床面積、走行距離等）を記入してください。
 5 「その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等」のうち「森林の保全及び整備」の「目標年度（計画）」欄には計画期間中の目標の累計を、「報告年度（実績）」欄には実績の累計を記入してください。
 6 「特記事項」には、平成2年度（1990年度）を基準とした排出量の対比や、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達を採用、特定フロンなどの条例指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。